

福生市国民健康保険
データヘルス計画
概要版
(平成28年度～平成29年度)

平成28年12月
福生市

1 福生市国民健康保険データヘルス計画の策定に当たって

事業背景と目的

高齢化に伴い健康寿命の延伸が課題となっていますが、診療報酬明細書(以下「レセプト」という。)の電子化、特定健康診査データの蓄積、国保データベースシステム(KDB)の整備等により、保険者が健康や医療に関する情報を活用して、被保険者の健康状態等を客観的に把握できるようになりました。

平成25年6月に閣議決定された「日本再興戦略」では、全ての健康保険組合に対し、レセプト等のデータ分析、それに基づく加入者の健康保持増進のための事業計画として「データヘルス計画」の作成・公表、事業実施、評価等の取組を求めるとともに、市町村国保にも同様の取組を行うことが示されました。

さらに、平成26年3月に「国民健康保険法に基づく保健事業の実施等に関する指針」が改正され、保険者は「データヘルス計画」を策定し、そのデータを活用した保健事業の実施及び評価を行うことが努力義務化されました。

これまで、保険者においてはレセプト等を活用し、保健事業を実施してきましたが、今後は、更なる被保険者の健康増進につながる事業の展開が求められています。

こうした背景を踏まえ、福生市国民健康保険においても、健康・医療情報を分析し、健康課題を明確にした上でPDCAサイクルに沿った効果的かつ効率的な保健事業の実施を図るため、「データヘルス計画」を策定し、被保険者の健康の保持増進及び医療費の適正化を推進していきます。

データヘルス計画で取り組むこと

- P (計画)** これまでの保健事業の振り返りとデータ分析による現状把握に基づき、加入者の健康課題を把握した上で事業を企画
- D (実施)** 費用対効果の観点も考慮しつつ、次のような取組を実施
 - ・ 加入者に自らの生活習慣等の問題点を発見しその改善を促すための取組
 - ・ 生活習慣病の発症を予防するための特定保健指導の取組
 - ・ 生活習慣病の進行及び合併症の発症を抑えるための重症化予防の取組 等
- C (評価)** 客観的な指標を用いた保健事業の評価
- A (改善)** 評価結果に基づく事業内容等の見直し

厚生労働省「データヘルス計画の手引き」より

計画の位置付け

本計画は、「国民健康保険法に基づく保健事業の実施等に関する指針」に基づく計画で、健康・医療情報を活用しPDCAサイクルに沿った効果的かつ効率的な保健事業を推進するものです。

「福生市総合計画(第4期)」の施策である「保健医療体制の充実と健康づくりの推進」を支える主要計画(分野別計画)として位置付け、「第二期特定健康診査等実施計画」、「健康ふっさ21(第2次)」をはじめとした、関連する他の計画との整合性を図ります。

計画の期間

本計画の実施期間は、「第二期特定健康診査等実施計画」との整合性を踏まえ、平成28年度から平成29年度までとします。

2 福生市国民健康保険の状況

被保険者の状況

基本情報

福生市の平成27年度人口は、56,974人です。また、高齢化率(65歳以上)は、21.0%で、東京都20.8%と比較すると約1.01倍、国23.2%と比較すると約0.91倍です。国民健康保険被保険者数は、18,600人で市の人口に占める国保加入率は、32.6%となっています。

福生市国民健康保険被保険者概要

福生市国民健康保険被保険者数及び平均年齢

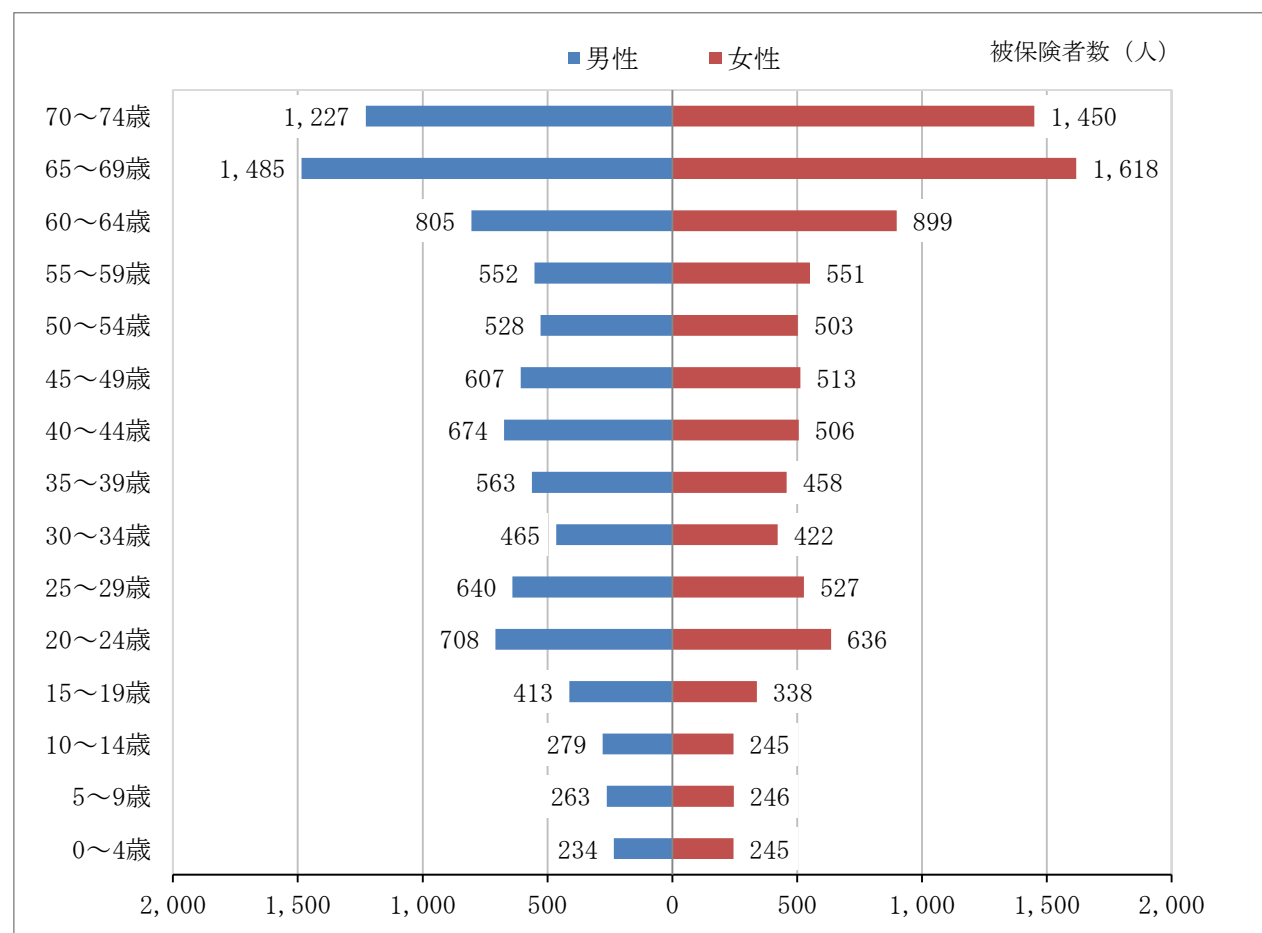
【被保険者数】 全体:18,600人

男性: 9,443人

女性: 9,157人

【平均年齢】 全体: 47.1歳

男女別・年齢階層別被保険者数構成割合(平成27年度)

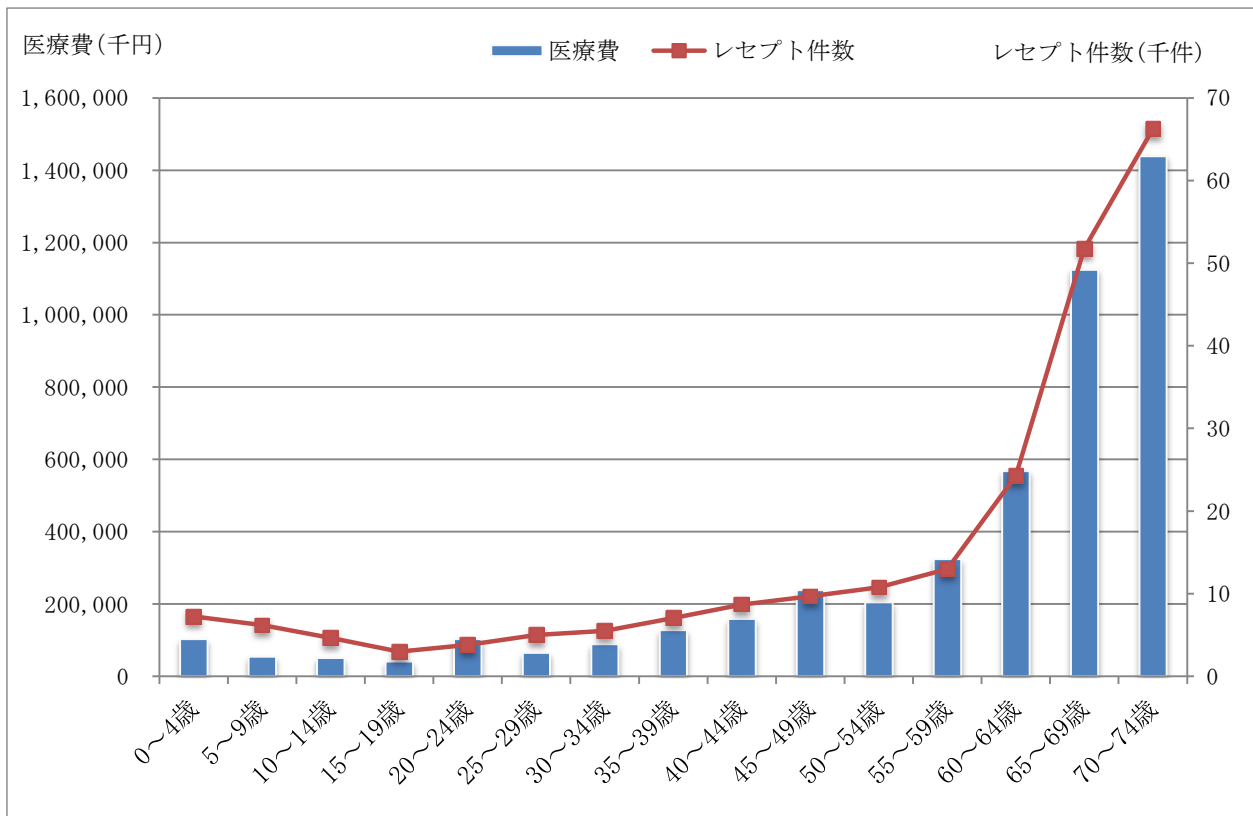


➤ 退職に伴う被用者保険からの資格切替えによる加入が多いため、60歳からの加入者が増えています。

3 医療・健診情報の分析

1 医療費の分析

年齢階層別の医療費・受診の状況



年齢	医療費 (円)	レセプト件数 (件)	年齢	医療費 (円)	レセプト件数 (件)
0～4歳	102,897,780	7,228	40～44歳	158,559,690	8,694
5～9歳	54,195,560	6,181	45～49歳	237,835,560	9,674
10～14歳	50,304,920	4,651	50～54歳	204,410,370	10,748
15～19歳	40,647,660	2,981	55～59歳	324,039,430	12,971
20～24歳	102,330,960	3,805	60～64歳	567,929,580	24,251
25～29歳	64,585,600	4,999	65～69歳	1,124,747,590	51,763
30～34歳	88,227,900	5,491	70～74歳	1,438,896,710	66,261
35～39歳	127,252,680	7,060			

- 平成27年度の国保医療費総額は、約50億円です。
- 医療費及びレセプト件数は、年齢とともに緩やかに増加し、60～64歳から65～69歳にかけては約2倍に増えています。

中分類による疾病別医療費

医療費総計が高い病気		医療費
1	腎不全	2億6,800万円
2	心不全、不整脈	2億3,900万円
3	高血圧症	2億3,100万円
4	糖尿病	2億1,800万円
5	前立腺がん、食道がん、 卵巣がん	2億1,300万円
6	脂質異常症	2億1,300万円
7	便秘症、逆流性食道炎	1億9,200万円
8	統合失調症	1億5,200万円
9	C型肝炎	1億3,400万円
10	不眠症、末梢神経障害	1億3,200万円

※100万円未満四捨五入

患者1人当たりの医療費が高い病気		患者1人当たりの医療費
1	腎不全	119万円
2	早産児、低出生体重児	63万円
3	脳性まひ	54万円
4	白血病	53万円
5	心臓の先天奇形	48万円
6	直腸S字部がん、直腸がん	45万円
7	統合失調症	30万円
8	C型肝炎	28万円
9	悪性リンパ腫	25万円
10	乳がん	25万円

※1万円未満四捨五入

患者数の多い病気		患者数
1	脂質異常症	4,928人
2	嘔吐症、めまい、頭痛	4,838人
3	アレルギー性鼻炎	4,626人
4	高血圧症	4,429人
5	胃炎	4,422人
6	乱視、老視	4,233人
7	便秘症、逆流性食道炎	4,208人
8	皮膚炎及び湿疹	3,796人
9	糖尿病	3,678人
10	急性副鼻腔炎、 急性喉頭炎 等	3,542人

- ▶ 疾病中分類ごとに集計した結果、「医療費総計が高い病気」「患者数の多い病気」「患者1人当たりの医療費が高い病気」について上位の病気を表記しています。
- ▶ 生活習慣病である腎不全が医療費総計が高く、患者1人当たりの医療費も高くなっています。
- ▶ 腎不全以外に生活習慣病である高血圧症、脂質異常症、糖尿病も医療費総計、患者数ともに上位に入っています。

…生活習慣病

3 医療・健診情報の分析

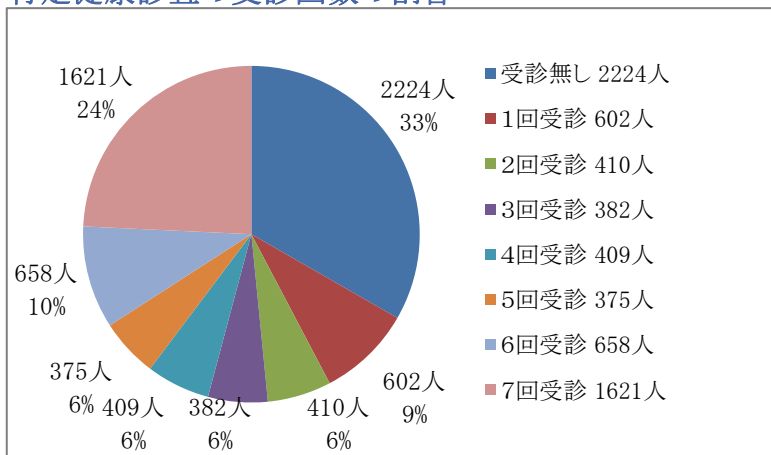
2 特定健康診査の分析

特定健康診査受診率の推移

	特定健康診査受診率(%)						
	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
東京都計	42.0	42.5	43.2	43.6	43.6	44.4	-
市町村計	45.4	46.1	46.9	47.6	47.7	48.6	-
福生市	42.8	41.5	44.6	45.9	46.2	46.7	47.6

- 平成22年年度から特定健康診査受診率は、増加しています。
- 平成27年度の特定健康診査の受診率は、47.6%ですが、第二期特定健康診査等実施計画の平成27年度の目標値は55.0%のため目標値まで到達しませんでした。

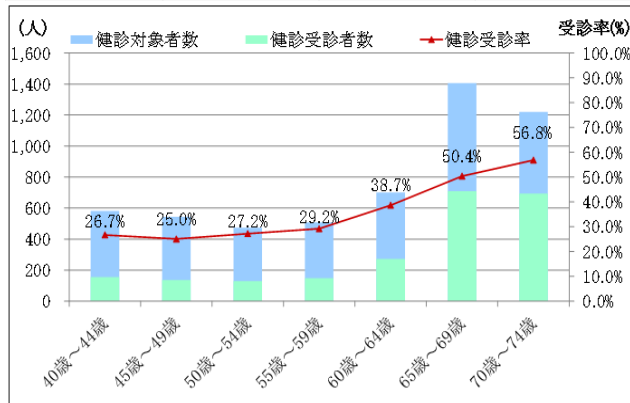
特定健康診査の受診回数の割合



- 平成20年度から平成26年度までにおける特定健康診査の受診回数を集計した結果、国民健康保険に7年間継続して加入している人で毎年健診を受診している人は、1,621人と全体のおよそ4分の1を占める一方で、7年間の間に1度も健診を受診したことがない人は、2,224人と全体の3分の1を占めています。

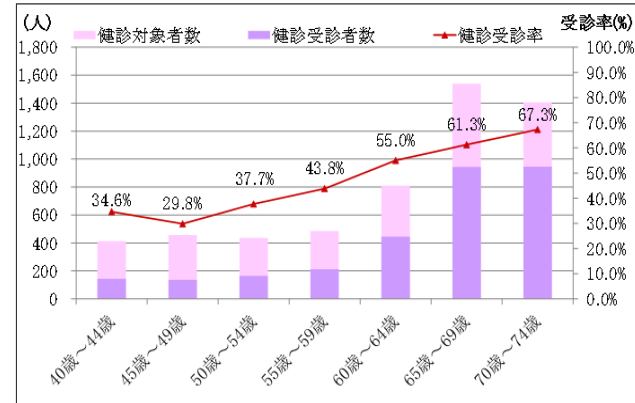
【男性】特定健康診査受診率

年齢	健診対象者数(人)	健診受診者数(人)	健診未受診者数(人)
40～44歳	581	155	426
45～49歳	543	136	407
50～54歳	474	129	345
55～59歳	507	148	359
60～64歳	701	271	430
65～69歳	1,405	708	697
70～74歳	1,219	693	526



【女性】特定健康診査受診率

年齢	健診対象者数(人)	健診受診者数(人)	健診未受診者数(人)
40～44歳	413	143	270
45～49歳	466	136	320
50～54歳	435	164	271
55～59歳	484	212	272
60～64歳	809	445	364
65～69歳	1,539	943	596
70～74歳	1,406	946	460

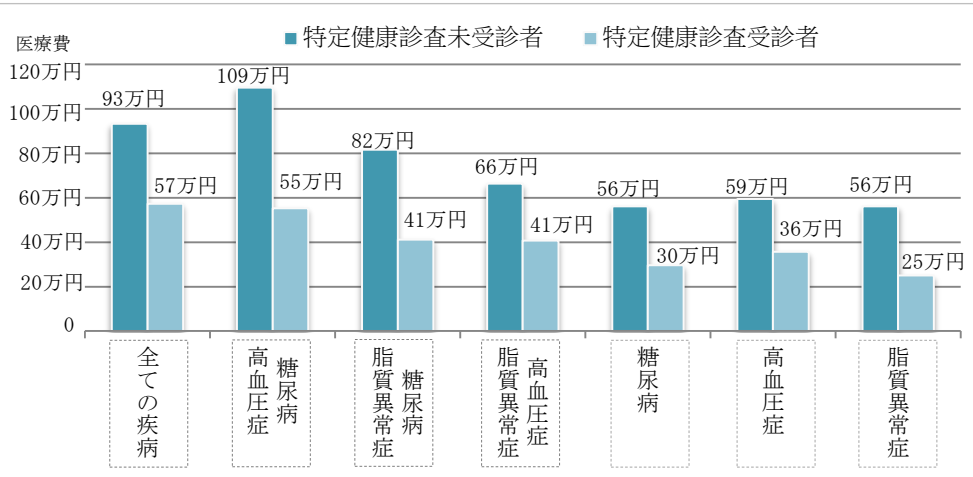


- 男女別・年齢階層別特定健康診査受診率を集計した結果、男女ともに年代が高いほど受診率が高い傾向にあり、男性よりも女性の方が受診率が高くなっています。

3 医療・健診情報の分析

3 その他の分析

生活習慣病患者の特定健康診査受診状況別1人当たり医療費の比較



➤ 特定健康診査の未受診者と受診者の1人当たり医療費では、いずれの罹患状況においても未受診者の方が高くなっています。

医療機関受診状況のまとめ

重複受診者	116人
頻回受診者	199人
重複服薬者	316人

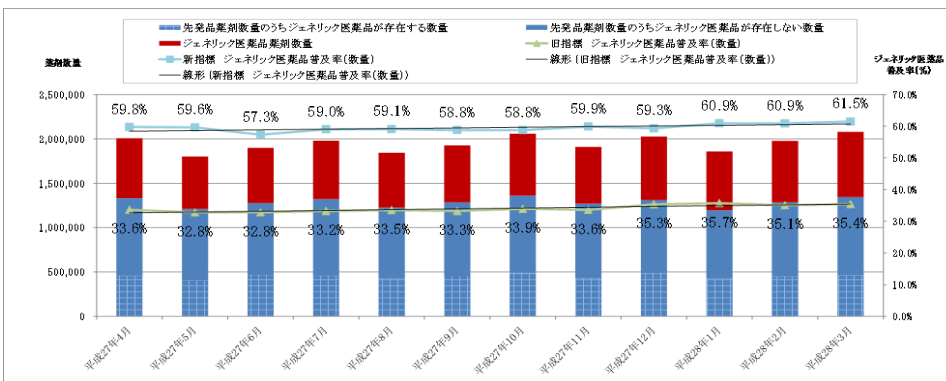
➤ 医療機関受診状況を実人数で取りまとめた結果、多受診(重複受診、頻回受診、重複服薬)に該当する人が多くいます。

※重複受診・・・1か月間に同系の疾病を理由に3医療機関以上を受診

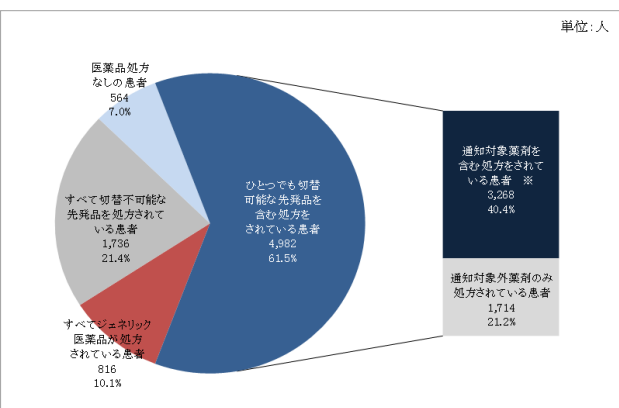
※頻回受診・・・1か月間に12回以上受診

※重複服薬・・・1か月間に同系の医薬品が複数の医療機関で処方され、同系医薬品の日数合計が60日を超える

ジェネリック医薬品の使用状況(数量ベース)



ジェネリック医薬品への切替ポテンシャル(患者ベース)



➤ 平成27年度のジェネリック医薬品の普及率平均は、59.6%です。

➤ ジェネリック医薬品切替可能な薬剤を含む処方されている患者は、全体の40.4%となっています。

4 福生市国民健康保険の課題と今後の取組

福生市国民健康保険の課題を踏まえた保健事業の実施

- 福生市国保被保険者の医療レセプト情報や特定健診情報の分析結果から見える課題を挙げ、解決に向けた実施事業を次のとおりまとめました。

<p>分析結果からわかる課題</p> <p>加齢とともに医療費も増加する傾向がある。</p> <p>医療費総計に占める上位の疾病は、生活習慣病を起因とする疾病である。</p> <p>特定健康診査受診率及び特定保健指導実施率が目標値を達成していない。</p> <p>生活習慣病患者の医療費について、特定健康診査の受診者よりも未受診者の方が高い。</p>	<p>実施事業・事業目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ●特定健康診査の未受診対策・継続受診への工夫を行います。 ●特定保健指導の利用を促進します。 <p>特定健康診査事業・特定保健指導事業</p> <p>平成28年 → 平成29年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定健康診査未受診者に対する電話勧奨の実施【新規】 ・個人受診結果提供の促進【改善】 ・医師からの特定保健指導利用勧奨【新規】 <p>目標：特定健康診査受診率 60% 特定保健指導実施率 60%</p>
<p>特定健康診査の結果、異常値があるにもかかわらず、医療機関を受診しない人がある。</p> <p>腎不全は、医療費総計及び1人当たりの医療費において最も高額となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●生活習慣病の早期発見・早期治療に向けて医療機関への受診を促します <p>医療機関受診勧奨通知事業</p> <p>平成28年 → 平成29年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者に受診勧奨の送付【新規】 <p>目標：対象者の受診率30%</p> <ul style="list-style-type: none"> ●糖尿病が重症化する前に医療機関への受診・保健指導等の利用を促し、医療費を抑制します。 <p>糖尿病性腎症重症化予防事業</p> <p>平成28年 → 平成29年</p> <p>実施に向けた検討</p>
<p>多受診(重複受診、頻回受診、重複服薬)に該当する人が多数いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●的確な保健指導の実施により受診行動の適正化を行います。 <p>重複・頻回受診者等訪問指導事業</p> <p>平成28年 → 平成29年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者に案内送付後、専門員による健康相談の実施【改善】 <p>目標：指導実施完了者の受診行動適正化20%</p>
<p>ジェネリック医薬品の普及率の目標値を達成していない。また、切替可能な先発医薬品が多数ある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ジェネリックの利用を促進します。 <p>ジェネリック医薬品差額通知事業</p> <p>平成28年 → 平成29年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先発医薬品の服用者に対し差額通知の送付【改善】 <p>目標：普及率(数量ベース)70%</p>